

『「第18回武蔵野はらっぱ祭り」の後援不承認について』への見解

小金井市教育委員会 御中
2005年10月31日
武蔵野はらっぱ祭り実行委員会

4町会会長から「武蔵野公園における原っぱ祭の教育委員会後援不許可のお願い」（以下「不許可のお願い」）が出された事実は、武蔵野はらっぱ祭り実行委員会（以下「実行委員会」）として重く受け止めております。

しかしながら、平成17年8月10日付小教教生発第94号「不承認の理由」にある「不許可のお願い」については見解の相違があります。ほぼ全面にわたって著しい事実誤認があるにも関わらず小金井市教育委員会（以下「貴委員会」）が不承認決定を下すのは公平を欠くと思われまことを申し添えて、実行委員会の認識を下記のとおりお伝えします。

記

A

- [I.理由] 1. 「原っぱ祭実行委員会は、言行不一致で信用が出来ない」
2. 「武蔵野公園の自然破壊を目指している」について

「武蔵野公園の自然破壊を目指している」事実はありません。

実行委員会はこれまで、武蔵野はらっぱ祭り（以下「はらっぱ祭り」）会場の「くじら山下原っぱ」をそのまま残すよう地域に訴え、また、野川流域の自然保護団体等との連携も行っていました。

一例として挙げれば、次のようなものがあります。

①実行委員会が「水辺を愛する野川流域の市民グループ」等と紹介されている書籍。

1. 写真譜『生きている野川』（発行創林社、販売けやき出版）/はらっぱ祭りの写真及びグループ名として
2. 鱒山英次写真集『ミスティモーニング』（株式会社IPC）/問い合わせ先グループ名として

②2004年「はらっぱ文化祭」（貴委員会後援）での実行委員会配布物より抜粋。

〈会場となる「原っぱ」は、野川の洪水対策として既に対岸にある調節池（溢れた水を逃がすための空堀）に続く第三調節池候補としてあり、原っぱ転用（潰し）計画は先送りとなるも消えていません。本日お集まりの皆様にもこの問題に関心を持つことを願い、原っぱ存続にお力添えを切に願うものです。〉

人々が「はらっぱ祭り」に集うことにより、「原っぱ」の自然の良さが注視されることが大切であり、「第三調節池」問題（「原っぱ」が消えてなくなる）を考える契機にでもなれば、との願いが込められています。

③2003年はらっぱ祭り当日の取り組み。

1. 地域の自然保護団体の申し入れを受け、「カンタン」保護の為、生息地にロープを張り立ち入りを厳重に禁止しました。
2. 会場内の「案内」は紐で吊し木を傷つけないよう配慮するなど、原状復帰と自然保護には最大の注意を払ってきました。
3. はらっぱへの車の乗り入れを制限し、参加者の荷物はすべて手持ちかりヤカーにて運びました。

自然保護等の活動が不十分であったとのお叱りは甘んじて受けます。

その限りでの「言行不一致」との見解もあり得ます。

しかし例えば公園（東京都）及び河川敷（国）の年2回行われる定期作業「草刈り」であっても、住民の中には「祭りの為に草を刈らすのは許せない（自然を破壊している）」と憤る人もおり、かような「誤解」

が生じる可能性は否めませんが、根拠もなく誤った認識をもたれ、一方的に流布されることには耐えられません。

B

[I. 理由] 3. 「公園は都民のためにあるもので一部の業者の占有は不当である。(1日開催する時は準備や後片付けなど延べ3日占有される。)」について

「占有」は東京都等から正式に許可されたもので、実行委員会に対して「不当」という表現はあたりません。

実行委員会は「業者」ではありません。

第1回はらっぱ祭り「企画書」から、既にスタッフ個人個人の多彩な職業を明記してきました。はらっぱ祭り期間中は大半のスタッフがそれぞれの勤務先から休暇を取り、無償の活動を続けてきました。個人有志の集まりが実行委員会です。

毎年楽しみに参加する常連の大半が武蔵野公園近隣の普通の家族です。周辺住民の方とともに実行委員会も生活不用品のリサイクルに一役買っていると自負しています。

「はらっぱ祭り」は入場無料の祭りとして常に開放されており、主催者プログラム等とは無関係に、来場者が思い思いの遊びに興じる姿があちこちにあり、楽しんでいます。

そのように「開かれている」(「都民のためにある」)からこそ一部不心得者も参加し、様々な問題も生じているとも言えるのです。

C

[I. 理由] 10. 「目的が明確でなく、従来の状況は、全国を渡り歩く住所不定の業者の営業が主体で、イベントはそのための人集めである」

[V. 参考資料] 「15年開催の現場の写真」〔キャプション: 大道商人達の店〕について

「全国を渡り歩く住所不定の業者の営業が主体」との見方は事実と全く違います。

参考資料写真〔キャプション: 大道商人達の店〕についてはそれぞれ下記の通り。

右手前: 千葉県勝浦市の主婦でリサイクル品や家庭の食べ物の模擬店

右奥: 茨城県行方郡北浦町で有機農業を営む仲間自家有機農産物や手作り草木染衣類の模擬店

左: 三鷹市の会社員で有機野菜や雑穀食べ物の模擬店

いずれの模擬店も、「大道商人(達)の店」ではありません。

テント(店構え)等を伴う出店について実行委員会では下記のような原則を設けて、忠実に守ってきました。

1. 「出店案内」は常に郵送
2. 事前の申し込みも必ず郵送

したがって、出店参加者の中に「住所不定」者がいることはありません。

また、各出店者に配布する「出店案内」では下記の点が明記してあります。

1. 『「業者」と見られる方の出店は固くお断りしています』
2. 『営利を目的としない手作りを大切に、祭りを一緒に盛り上げてくれる楽しい方々を歓迎します』

“リサイクル”と偽って明らかに仕入れた靴を売る者、申告内容を偽り不自然に大量の時計を売ろうとする者等、事前の申告を偽ったり、単に「商品」を売りさばく「営利」を主目的とするような「業者」と見られる者については、全てその場でお帰り願っています。

また、「全国を渡り歩く」とありますが、例えば第17回「はらっぱ祭り」でのリサイクル出店を除く出店総計

は126件で、85件/67.5%が東京都在住、117件/92.9%が関東在住ということになります。

出店者は「全国を渡り歩く住所不定の業者」ではありません。

【参考】これまでの出展参加（本部企画を含む）等の概要

天体望遠鏡で星を見る、自然観察、子供パレード、ワークショップ、シュタイナー教育の手作り体験、武蔵野の土で絵描き、粘土細工教室、野外ゲーム・遊び（ヨーヨー・輪投げ・ダーツ・紙芝居・お絵かき・原っぱ滑り台等）、シャボン玉絵描き、人間紙芝居、熱気球体験、旅行者友の会メンバー募集、移動無線局、マジックショー、火吹きパフォーマンス、パントマイム、講談、映画「ホピの予言」「偏西風」「南の島から」等上映、映像インスタレーション、ビデオ上映会、アニメーション映像上映、映像プロジェクト、講演会「非暴力」、福祉バザー、中国帰国者支援バザー、丸木美術館（反原爆絵画展示館）応援バザー、チェルノブイリの子供達にカンパをチャリティ、ネパールの子供に古着をチャリティ、オーガニック宣伝、くじら山原っぱを残そうパネル展示、母乳育児キャンペーン、ピナツボ復興支援キャンペーン、沙流川ダム反対アピール・展示、レナードペルティエ釈放署名（ネイティブアメリカン支援）、バングラデシュ少数民族ジュマ支援、戦後補償を求める意見広告運動、地域コミュニティを考える、環境問題テーマ展示、動物愛護キャンペーン、World Peace 祈りセレモニー、世界の平和パネル展示、地雷 & パレスチナ写真展示、反原発展示、死刑停止署名、造形展示、絵本展示、版画展示、書画展示、写真展示、絵画展示、琴演奏、和太鼓演奏、アフリカの太鼓、アメリカンスクール教師のウェスタン演奏、沖縄民謡、エスニックパーカッション、沖縄三線、マンドリン演奏、ウクレレ演奏、鼻笛演奏、フォルクローレ、アコーディオン演奏、ハーモニカ演奏、ピアノ演奏、日本舞踊、フラダンス、インド舞踊、フラメンコ、創作舞踏、仮面劇、インドネシア舞踊、ベリーダンス、独舞、バリ島ダンス、エイサー（沖縄）、朝鮮農楽、アイヌの踊り、ファイアーダンス、詩の朗読、気功、ヨガ、シンガポール料理紹介、南インド料理紹介、インドネシア文化紹介、ブラジル格闘技、シンボルドーム作り、クチャ（アイヌの茅葺き仮小屋）作り、ゲル（パオ＝モンゴルの移動テント）作り、その他。

D

[I. 理由] 11. 「業者のテント張りの寝泊りで、公園内を所嫌わず糞尿をするため臭気が漂い、付近住民や散歩の人が迷惑した。其上、夜遅くまで騒音を発生させ付近住民の安眠を阻害された」について

「公園内を所嫌わず糞尿をするため臭気が漂い」は極端な誇張であり、祭り期間中にそのような事実はありません。

祭り期間中の宿泊は、出店参加者等の機材その他の保守管理のために限り許可されています。

祭り期間中、出店者や一般参加者よりその種の「臭気」が問題とされたことは一度もありません。

片づけの際、「糞」を幾箇所か見かけたとの情報はありますが、それが全て人糞なのか犬糞なのかは判明しませんでした。

「夜遅くまで騒音を発生させ付近住民の安眠を阻害された」ことについては大変申し訳なく思います。

今後の取り組みとして、以下のことを厳守するよう徹底いたします。

1. 住宅付近には近寄らない
2. 夜間は静かにする
3. 管理努力を怠らない
4. 「騒音」と受け取られない適度な音量を保つ
5. 時間厳守を第一義とする

E

[II. 中止理由の根拠] 1. 『自然を大切にすると云いながら平成 15 年 11 月 18 日の朝日新聞にくじら山広場に「新宿西口広場を作りたい」など自然破壊を目指しており、ゴミを散らかし、騒音を撒き散らし、麻薬の普及など教育委員会に提出した趣旨と全く正反対の行為をしている』について

「自然破壊を目指し」の根拠が荒唐無稽であり事実無根です (A 項参照)。ゴミは全て片づけています (I 項参照)。

「騒音を撒き散らし」た事実はありません。「騒音」と受け取られる事実 (K 項参照) はあるものの、音楽そのものは騒音ではありません。

「麻薬の普及」などの事実はなく、誤解に過ぎません。

「教育委員会に提出した趣旨と全く正反対の行為」は一切ありません。

朝日新聞に掲載された「記事」はスタッフの一人についての記事であり、「はらっぱ祭り」実行委員会の見解とは何ら関係ありません。また、記事内容や表題についても当人の校正・了承もなく掲載されたもので、当人も一切責任を負えないとしています。その上で、当人によると主題は「広場」であり、実験的試みに過ぎないと語っています。「はらっぱ祭り」は個人の人々の様々な考え方の自由な集まりです。個人の考え方に制約はありません。

F

[II. 中止理由の根拠] 2. 『禁止されている「大麻」の自由化を宣伝し、不法販売の疑いもあった』について

実行委員会が『「大麻」の自由化を宣伝』したことはありません。

また「不法販売」の事実もありません。

C 項でも触れましたように、「はらっぱ祭り」はさまざまな団体、個人の表現の場となっています。「大麻自由化運動」団体の参加を認めたのは、当該団体が東京都や環境省後援の環境保護イベントに参加実績を重ねている、刑罰の軽減や「犯罪者」の処遇改善を求める人権擁護団体であるという点を評価してのことです。しかし、残念なことに、実行委員会の予期に反し掲げられたスローガンは「人権問題」を訴えるものではありませんでした。今後、当該団体のみならず、主義主張を一方向的に喧伝し住民の誤解を招くような団体の参加は認めません。この件について「貴委員会後援」の意義を十分に理解していなかったことについては反省しております。

今後、件の団体の参加をお断りする決定を実行委員会として下しています。

関連 URL:2004 年の武蔵野はらっぱ祭り開催中止についてのコメント

<http://the-harappa.net/coment.html>

G

[II. 中止理由の根拠] 3. 「テントに寝泊りした一部の女性が無断で南小学校のトイレを使用し安全面で問題があった」について

「テントに寝泊りした一部の女性が無断で南小学校のトイレを使用」したのが事実であれば主催者としては残念です。

社会人としての基本的なマナーの徹底を呼びかけます。

H

[II. 中止理由の根拠] 4. 「夜中は無法地帯になりナンパ行為などが目撃されており、青少年に有害である」について

そのような事実はありません。

書き記すまでもありませんが、昼夜にかかわらず、法治国家外にあるお祭りではありません。なお「ナンパ行為」とは具体的にどのようなことを指摘しているのか不明ですのでコメントはさしひかえます。

また、祭りには多くの青少年団体等が継続的に参加しており、青少年の健全な成長に寄与しているものと自負するものです。

I

[II. 中止理由の根拠] 5. 「排出されたゴミの処理が不適切であった。(ゴミ処理は持ちかえりが原則であるのに、片付けず市民の税金で処理され、1日経ってもまだゴミがあるので注意したが処理しなかった。)」

[V. 参考資料] 「15年開催の現場の写真」〔キャプション: 道に放置されたゴミ〕、〔キャプション: 片付けたあと、落ちていたゴミ〕について

当該のゴミについて住民の方から直接注意を受けたという事実はありません。

「ゴミ処理は持ちかえりが原則」で、参加者のほとんどが守っています。

「まだゴミがあるので注意したが処理しなかった」は事実ではありません。ゴミは片付けています。

「市民の税金で処理され」たことを問題視されていますが、規定の手続きにそったもので、その是非についてコメントする立場にはありません。

一般参加者の大半や出店者のほとんどがゴミや容器等を持ち帰っています。

会場内にはゴミ箱を置かず、会場周辺の公園常設ゴミ箱に貼り紙をして、ゴミ箱を使用せず家に持ち帰るよう呼びかけてきました。実行委員会も、使用し回収したアルミ缶や空き瓶や段ボールや資材の一部等は全てリサイクルに回しています。それでも見落としはあり、その時々指摘された件についてはその都度全て回収に回ってきました。

公園管理事務所からは原状復帰努力を評価され、市清掃局からも分類の見事さや量の少なさに感心されてきました。しかし、今回は特に、実行委員会の目が届かない所でのゴミ問題その他が起き、近隣住民のみなさんにご迷惑をおかけしましたことについては心が痛みます。

「15年開催の現場の写真」中の「道に放置されたゴミ」コメントがある上下2枚の写真は事実です。しかし、会場の外にあったそれらのゴミは、祭り片付け翌日に公園管理事務所から連絡があり、通報を知った翌朝（それ以前の対応は不可能です）、祭りと無関係なゴミと見られるものも含め全て片付けたものです。

「注意したが処理しなかった」わけではなく、公園管理事務所からの連絡を受けて実行委員会が片付けたというのが真相です。公園管理事務所からは「素早い対応で助かる」と言われ、公園管理事務所所有のリヤカーまで貸していただきました。誤解されていることはたいへん残念に思います。

〔キャプション: 片付けたあと、落ちていたゴミ〕の写真は、実行委員会が分類し集めたゴミで、市役所に連絡済みのものです。市の清掃局から指定された場所に置いたもので、決して「落ちていたゴミ」ではありません。全体にブルーシートをかぶせ、紐で飛ばないように固定し、写真のシートの複数箇所には小さな四角の紙を貼り、「11月5日回収予定」、「市役所回収連絡済み」、「はらっぱ祭り実行委員会」、「ご迷惑をおかけして申し訳ありません」と記入し表示しました。

J

[II. 中止理由の根拠] 6. 「朝のラジオ体操の実施が阻害された」について

「朝のラジオ体操の実施が阻害された」とありますが、貴委員会作成の「参考資料」によると、「外でやるよう抗議された」とあり、「阻害」とは違いがあります。

公園などのパブリックな場において、一方が他方を排除するような事態が起こるのは遺憾です。

なお、実行委員会としては後日、「武蔵野公園ラジオ体操の会」には謝罪に出向いています。

K

[III. 今までの経緯] 『「原っぱ祭」現在まで17回開催され、付近住民は「教育委員会の後援」とあって我慢をしていたが、平成15年の開催の際には、「大麻の自由化」等の不法行為と、併せて付近住民が多大の被害を被り、付近住民が抗議を申し込み、平成16年度は開催を中止させた』について

実行委員会は、第1回目より第7回目まで、「前原町一丁目町会」「前原町二丁目町会」「はげの道町会」「なかよん町会」の全部、ないしは3町会と一部近隣個人宅につき、「教育委員会の後援」の決定以前に各町会等に説明し、祭り開催への『承諾書』をいただけてきました。

「大麻の自由化」主張自体は「不法行為」ではありません。

実行委員会は「不法行為」を容認することはありません。

2004年は実行委員会によせられた苦情等について深く反省し、改善するための討議を重ねる期間とするため、自主的に開催を見合わせたというのが真相です。

『承諾書』の但し書きでは「趣旨に反した場合や著しい騒音等で苦情が殺到した場合は、本件祭りを中止させる権限を主催者と分かちあいます」としました。

第16回目までは「趣旨に反した」といった苦情は一切なく、「騒音」等の苦情はその時々数件内外であったこともありますが、「殺到」したことは一度もありません。実行委員会は祭り開催前には必ず保安面での小金井警察署の協力を仰いでいます。「騒音」等の苦情には警察からの連絡があったことは何度かありました。演奏時間延長の件では弁解の余地もないのですが、音量についてはその都度対応し、認容の範囲内等と警察に確認してもらっています。風向きその他の要因により「音」が思わぬ方向に流れ、すぐには「騒音」状況を把握できない場合もあります。匿名でない限りその現場に「苦情者」と赴き「騒音」の程度を確認し、対処した上で納得していただけてきました。

一昨年（2003年）の第17回目には警察からの連絡がなかったにもかかわらず、結果的には近隣住民のみなさんにはご迷惑をおかけし、大変申し訳なく思っています。しかし「多大の被害」は言い過ぎです。

L

[IV. 具体的支援要望事項] 1. 「原っぱ祭実行委員会との接触があった場合は市民の意向を伝えて中止勧告する」

2. 「都の公園管理個所への公園使用不許可の要望をする」について

「市民の意向を伝えて中止勧告する」とありますが、多くの市民から開催を望む声が届いています。

貴委員会による説明でも、教育委員会に寄せられた苦情内容について、「止めて欲しい」と「内容を改善して続けて欲しい」が「ほぼ同じ」となりましたが、添付の「参考資料」にはその部分を記した後半部が抜けています。

「不許可のお願い」は4町会会長名で出されていますが、各町会に所属する近隣住民の幾人かによると、

以前、貴委員会に提出されて「後援不承認」の理由の一つとされ、今再び「迷惑をこうむる懸念が強く表明」の基ともなった「住民アンケート」の存在を知らない者がおり、「アンケート結果」も知らされていません。

「不許可のお願い」は、近隣住民の一部の意見を代表してはいるものの、多くの事実誤認や意図的に誇張された情報操作にもとづいているものではないかと、懸念せざるをえません。

「誤情報」「誇張」を一方的に受け取った住民のみなさんが、実行委員会に対し悪いイメージを持つことは、容易に推測できます。

M

[V. 参考資料]「15年市民の苦情内容の概要」について

参加者の一部にマナー違反があり、許可なくキャンピングしていた不届き者（部外者）のおかげで、近隣住民のみなさんには大変ご迷惑をおかけしました。

祭りの進行・運営についての不手際は実行委員会の責任であり、深く陳謝するとともに、誠意をもって今後の対策を講じる所存です。

実行委員会としては実効性のある対策を練るためにも、苦情等の詳細状況を精査し、事実関係の詳細を把握したいと思っています。

今後ともひきつづき、貴委員会ははじめ関係各機関からの情報提供等のご協力やご指導をいただきながら、地域住民のみなさんからよりいっそう支持される祭りをしていきたいと思っています。

武蔵野はらっぱ祭り実行委員会

Tel.Fax. : 042-323-8753 (恒河舎 [こうがしゃ] 気付)

代表 : 塩原 安従里 府中市浅間町在住